

問 3

解答 5

1. 適切。他記式調査法は、調査者が調査対象から直接回答を得られるため、自記式調査法に比べて相対的に高い回収率を上げることができる。
2. 適切。集合調査法は、集団で一斉に回答してもあらうため、周りの人の回答状況に影響を受け、回答がゆがめられやすい傾向がある。
3. 適切。留め置き調査法の利点の一つは、その場で回答を書いてもらう調査に比べて回答者が自分のペースで回答を行える点である。
4. 適切。訪問による調査は、調査員がある程度必要になり、調査員に対する報酬や交通費等の費用が発生する。そのため、郵送費等で済む郵送による調査の方が、訪問による調査に比べて費用を安くあげることができるとができる。
5. 適切でない。訪問による調査は、調査対象者の自宅に直接赴いて調査を実施するため、調査対象者が地理的に広範に散在して場合には、調査費用、調査時間などがかかり、調査方法としては向いていない。郵送調査法がこの場合の調査に向いている。

問 4

解答 4

1. 正しい。直接の確認ができなため、本人以外の者（家族など）の意見が混入する危険性がある。
2. 正しい。返送率は一般に低い。回収率を上げるために贈礼品の工夫なども必要である。
3. 正しい。遠隔地であっても調査を行うことが可能である。
4. 誤り。回収率を上げるために督促等を出すこともあるが、必ず出す必要はない。
5. 直接の確認ができなため、誤解や誤記入による回答の危険性がある。

問 5

解答 5

1. 誤り。ステレオタイプについての記述である。
2. 誤り。ダブルバーレル質問についての記述である。
3. 誤り。プリテストについての記述である。
4. 誤り。無作為抽出法についての記述である。
5. 正しい。質問の順番は、キャリアオーバー効果が出にくい配列になるよう配慮しなければならない。